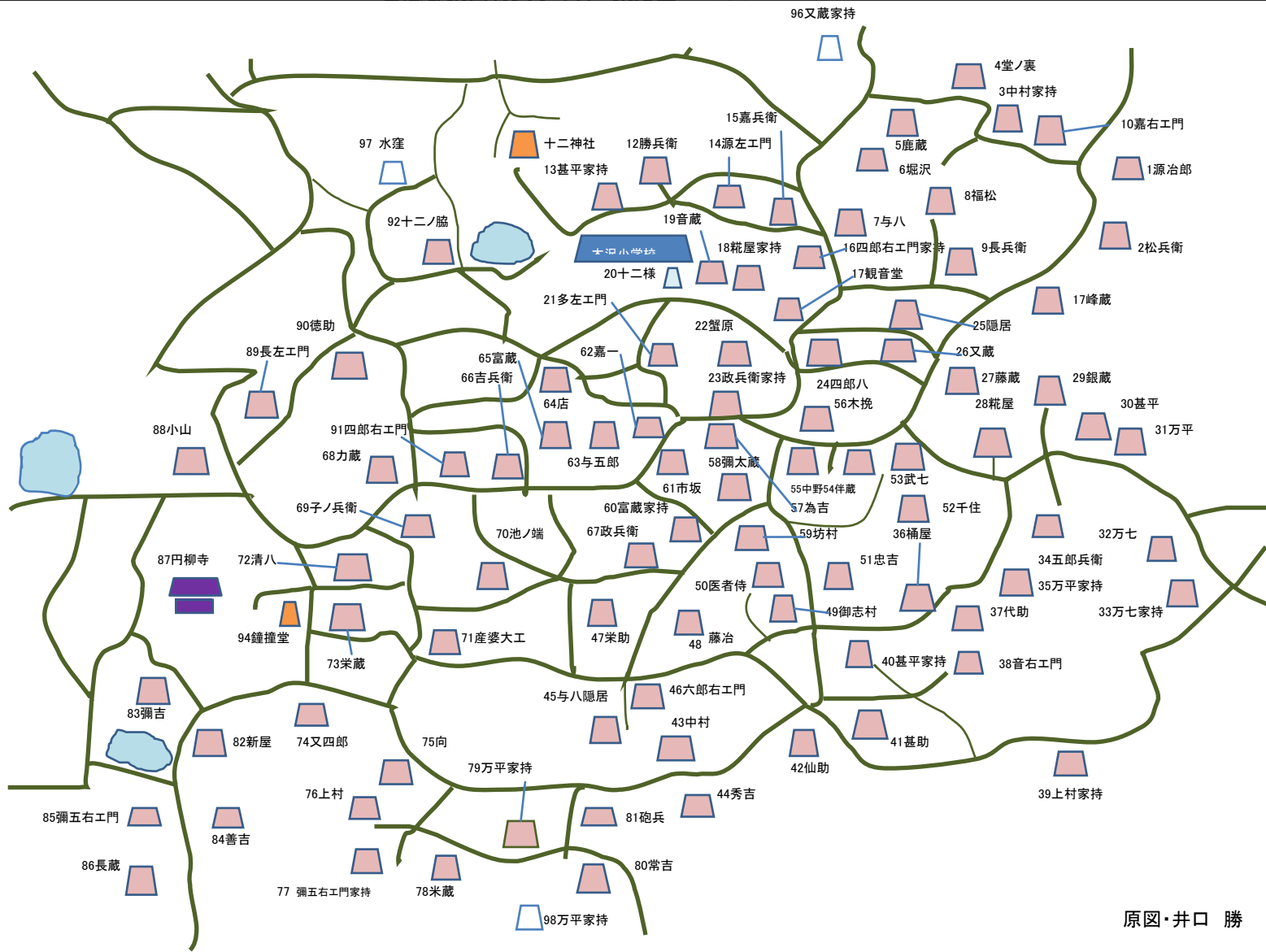


古志郡東山村大字木澤 集落図 (昭和20年頃)



原図・井口 勝

古志郡東山村大字木澤 屋号一覧(集落図参照)

昭和20年頃

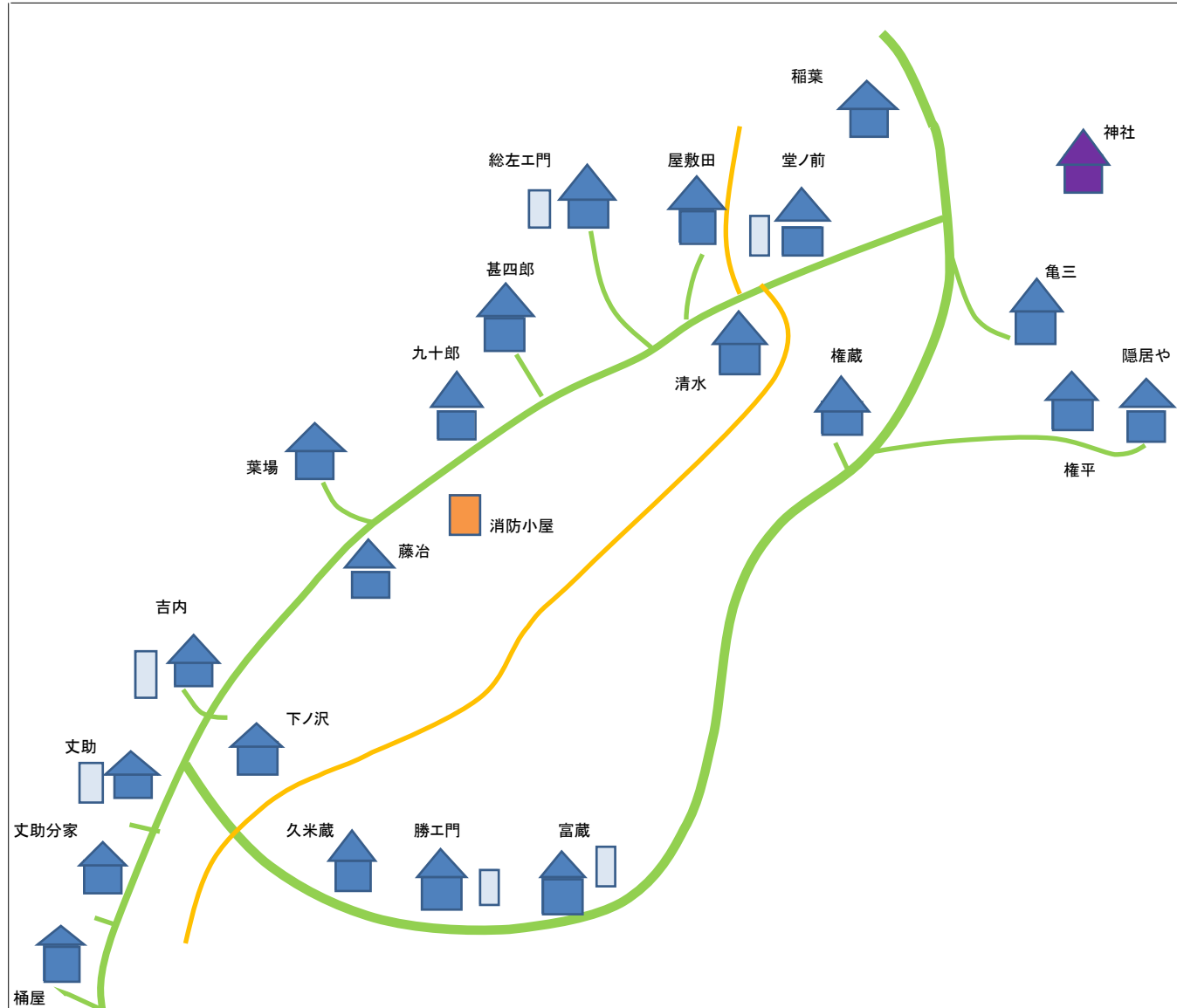
屋号	呼び名	屋号	呼び名	屋号	呼び名
1 源治郎	げんじろう	34 五郎兵衛	ごろべえ	67 政兵衛	まさべえ
2 松兵衛	まつべえ	35 萬平家持	まんぺいもち	68 力蔵	りきぞう
3 中村家持	なかむらいもち	36 桶屋	おけや	69 子ノ兵衛	ねのべえ
4 堂ノ裏	どうのうら	37 代助	だいすけ	70 池ノ端	いけなた
5 鹿蔵	しかぞう	38 音右工門	おとえん	71 産婆大工	さんばだいく
6 堀沢	ほりさわ	39 上村家持	やあむらいもち	72 清八	せはち
7 与八	よはち	40 甚平家持	じんぺいもち	73 栄蔵	えいぞう
8 福松	ふくまつ	41 甚助	じんすけ	74 又四郎	またしろう
9 長兵衛	ちようべえ	42 仙助	せんすけ	75 向	むけえ
10 嘉右工門	きうむ	43 中村	なかむら	76 上村	やあむら
11 峰蔵	うねぞう	44 秀吉	ひできち	77 彌五右工門家持	やごいんもち
12 勝兵衛	かつべえ	45 与八隠居	よはちいんきよ	78 米蔵	よねぞう
13 甚平家持	じんぺいもち	46 六郎右工門	ろくれえん	79 萬平家持	まんぺいもち
14 源左工門	げんぜえん	47 栄助	えいすけ	80 常吉	つねきち
15 嘉兵衛	かへえ	48 藤治	とおじ	81 砲兵	ほうへい
16 四郎右工門家持	しろういんもち	49 御志村	うしむら	82 新屋	あたしや
17 観音様	かんのんさま	50 医者侍	いしやじ	83 彌吉	やきち
18 糶屋家持	こうじゃもち	51 忠吉	ちよきち	84 善吉	ぜんきち
19 音蔵	おとぞう	52 千住	せんじゆ	85 彌五右工門	やごいん
20 十二様	じゆんさま	53 武七	ぶしち	86 長蔵	ちようぞう
21 多左工門	たぜえん	54 伴蔵	ばんぞう	87 円柳寺	おてら
22 蟹原	かにやら	55 中野	なかの	88 小山	こやま
23 政兵衛家持	まさべえもち	56 木挽	こぶき	89 長左工門	ちようぜえん
24 四郎八	しろうはち	57 為吉	ためきち	90 徳助	とくすけ
25 隠居	いんきよ	58 彌太蔵	やたぞう	91 四郎右工門	しろういん
26 又蔵	またぞう	59 坊村	ぼうむら	92 十二ノ脇	じよんなき
27 藤蔵	とおぞう	60 富蔵家持	とみぞうもち	93 十二神社	ちんじゆさま
28 糶屋	こうじゃ	61 市坂	いつつあか	94 鐘撞き堂	かねつきどう
29 銀蔵	ぎんぞう	62 嘉一	かいち	木澤小学校	がっこう
30 甚平	じんぺい	63 与五郎	よごろう	96 廃屋・又蔵家持	となんすけ
31 萬平	まんぺい	64 店	みせ	97 廃屋・水窪	みずくぼ
32 萬七	まんしち	65 富蔵	とみぞう	98 廃屋・萬平家持	きんじ
33 萬七家持	まんしちもち	66 吉兵衛	きちべえ		

※屋号表記については、井口勝の集落図に基づく(一部変更)

長岡市川口木沢・集落図 平成23年1月1日現在



峠 集落図 (昭和の頃)



さいの神

2011.1.16中野屋敷跡

天候・雪一時曇り

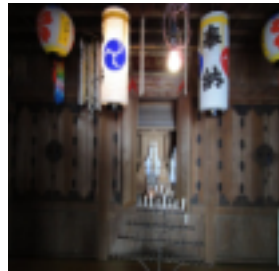


★会場準備

朝9時前に村の衆が集まる(日が悪い人も準備はする)。時折吹雪く、あいにくの空模様。会場内(空き地)を標(かんじき)で固く踏み、中央に用意した竹を立てる。同時にスノーシェードから、秋に刈り取った茅(軽トラ2台半分)を運んで来る。その茅を竹の周りを取り巻き、縄で縛る。更に、その周りに藁束を重ねて、縄で固定する。また、門松や注連縄(しめなわ)、神棚の札類などもその中に入れる。最後に、濡れないようにブルーシートを掛ける。

★御神灯取り

公民館地区館長の役目。十二神社に参拝、御神灯を弓張提灯に点し、会場まで運ぶ。



★さいの神執り行い

午後1時15分頃、雪の祭壇に御神灯を点し、御神酒(おみき)を上げる。

午後1時30分、およそ43人(区外5人)が集まる。地区総代(代理)があいさつ。火付け役に特に決まりはないが、今年(とし)は年男(としおとこ)に。点火と同時に爆竹音。盛大に炎が上がり、厳冬の村にあかあかと緋が差す。すぐに、御神酒がふるまわれ、人々の顔にもほんのり紅(べに)が差す。



また、それぞれがだんごの木などに付けた切り餅やスルメを、火に近づけて焼く。無病息災を願って、それを食べる。

午後2時、残り火番をあとにし、人々は家路につく。

そして、木沢の冬はまだ、まだ・・・続く。

「さいの神」メモ

塞の神・幸の神・障の神と書き「さえの神」と読むが、さいの神とも。いわゆる「道祖神」のこと。

『信仰』 民間信仰において最も広く祀られている神で、外から来襲する悪霊を防塞する境の神、道の神として、また、現世と幽界の境をつかさどる神、縁結びの神、性の神、産の神として信仰されている。『祭り』 全国的に小正月の行事として行われている。大火をたくのが特色で「左義長」「どんど焼き」などと呼ばれている。道祖神は子供と親しい神と言われ、この祭りには子供組が活躍し、家々から餅や金銭をもらい歩く風習などがある。

「大事典desk」より

「いざなぎのみこと」が「いざなみのみこと」を黄泉(よみ)の国に訪ね、逃げ戻った時、追いかけてきた黄泉醜女(よもつしこめ)をさえぎり止めるために投げた杖から成り出た神。

邪霊の侵入を防ぐ神。行路の安全を守る神。村境などに置かれ、近世にはその形から良縁・出産・夫婦円満の神ともなった。みちの神。道祖神。

「広辞苑」より

※木沢でも古くから続く行事だが、かつては、村の各組に分かれて、前日に子供たちが雪の堂(高さ1m位)を作り、翌朝、それぞれの組で祭事を執り行った。